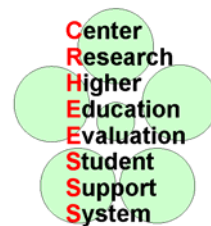


週刊センターニュース No.143



第143号(2007年1月29日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyuu_rche/index.htm

ランチョンセミナーのご案内

日時: 平成19年1月30日(火) 12時10分~12時40分

場所: 角間キャンパス総合教育棟 A1 講義室

タイトル: 「タフツ大学サマースクール英語研修 English Today 4 Weeks に参加して」

発表者: 2006年度 ET4 参加学生、斉木麻利子(留学生センター)

内容: 2006年度タフツ大学サマースクール英語研修 ET4 に参加した学生6名が、体験談を語ります。

ET4 での学習成果発表も兼ねていますので、授業のこと、世界中の若者との出会い、アメリカでの大学生活のことなどを英語で発表します。

第4回大学教育セミナーのご案内

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

日時: 平成19年2月22日(木) 13時30分~17時30分

会場: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟 D10 講義室

(双方向遠隔授業システムを用い、富山大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学への送受信を予定)

テーマ: 「GPAと厳格な成績評価 - 学士課程教育の実質化に向けて - 」

趣旨: 大学がいかなる教育を行い人材育成の成果を上げているかについて、ユニバーサルアクセス時代を迎えた今、社会に対するより明確な説明が求められる。そのような大学教育の質保障の方策として、多くの大学で「厳格な成績評価」について議論されている。しかし、授業の到達目標に対する達成度をいかに評価するか、文系、理系にわたる多様な授業において適切な成績評価基準を設定できるのか、これらの課題についてはさらに議論が必要である。本セミナーでは、成績評価指標として普及しつつあるGPA制度の起源、原理、運用の事例について知見を得るとともに、成績評価の前提となる授業の到達目標の明確化と対応する評価基準の設定について意見交換を行う。

プログラム

開会の挨拶 鹿野勝彦(金沢大学副学長・教育担当理事)

講演(13:35-15:35)

館 昭(桜美林大学大学院教授)

「学士課程の意義と個々の授業、そして成績評価」

半田 智久(静岡大学大学教育センター教授)

「ユニバーサルなものにはユニバーサルに :

基幹システムとしての fGPA と UDex への方向性」

シンポジウム(15:45-17:30)

報告

向 智里（金沢大学大学院自然科学研究科教授）

「薬学部における GPA の活用について」

山崎 光悦（金沢大学大学院自然科学研究科教授）

「工学部の GPA の導入と活用状況」

議論

情報交換会(18:00-19:30)

申込方法：2月19日（月）までにメールにて西山(nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp)までお申込ください。情報交換会は金沢大学角間キャンパス生協南福利喫茶部にて会費3000円で行いますので、参加ご希望の場合は、合わせてお知らせください。

エジプト考古学者吉村作治氏の「偽学位騒動」とディプロマ・ミル問題

平成18年12月30日付の産経新聞朝刊に、「非認定大学の博士号 吉村作治学長も取得」との記事が掲載されました。吉村作治学長とは、今年4月開学の「サイバー大学」学長で、エジプト考古学者として有名なあの吉村作治氏のことです。

その記事には、吉村氏は、早稲田大学人間科学部助教授であった平成6年、週刊誌の広告を見て「パシフィック・ウエスタン大学（PWU）ハワイ」の東京事務所を訪ねたこと、その後、30万円を支払い、考古学の論文を提出したこと、翌7年にPWUハワイより博士号を授与されたこと、などが記載されています。PWU ハワイは、金銭と引き換えに学位を乱発する「学位製造工場（ディプロマ・ミル、DM）」と位置づけられている機関です。ちなみに、吉村氏は、平成11年に、早稲田大学理工学部からあらためて博士号を授与されているとのこと。

記事によれば、この件について、吉村氏は「学位に対価を払うこと自体に問題はないと思うが、お金だけでは買えないものだ。うかつだった。DMはよくないし、それを悪用するのもよくない。皆さんにも気を付けてほしい」と話した、とのこと。

さて、ここで問題となっている「ディプロマ・ミル（DM）」の正式定義ですが、文部科学省「国際的な大学の質保証に関する調査研究協力者会議」の配布資料「『ディプロマ（ディグリー）ミル』問題について」によると、それは「贋物の証明書や学位を与える、信頼に値しない教育ないしはそれに類する事業の提供者」と定義づけられています。

上記文書によると、DMの偽学位乱発の弊を除去するため、米国では、高等教育機関の適格認定を掌る評価団体（アクレディテーション団体）に対するメタ評価機関である「高等教育適格認定協議会（CHEA）」によるDMの判断指標の公表、DMに関する情報提供（オレゴン州では、「州内で無効である」機関のリストを公表）、DMに対する捜査権をFBIに付与（「Diploma Mill Task Force」の設置）などの対応策が講じられています。

我が国でも、インターネットの普及とEラーニングの登場、大学院進学者増や学位への関心の高揚といった状況を背景に、DMが広くかつ深く侵入してきているようです。怖いのは、その団体・機関が授与しようとする学位が、一般の人々には、DM学位か否かの見極めがつきにくいという点です。

単に名誉欲を充たしたいがためではなく、何らかの理由で特定専攻分野の大学院学位が必要という方もおられるかもしれませんが、皆さん、このDM学位には、くれぐれも用心しましょう。

（文責：評価システム研究部門 早田幸政）